

仙台市公民館運営審議会議事録

(令和5年5月定例会)

○ 日 時

令和5年5月18日(木) 午前10時00分～11時45分

○ 会 場

生涯学習支援センター 5階 第一セミナー室

○ 出席者

〔委員〕 相澤雅子委員、市瀬智紀委員、伊藤美由紀委員、大内幸子委員、幾世橋広子委員、熊谷敬子委員、佐藤正実委員、菅原正和委員、鈴木京子委員、福士定男委員、牧靖子委員、松田道雄委員、三浦和美委員

〔事務局〕 生涯学習支援センター長 武者
生涯学習支援センター次長 内海
生涯学習支援センター事業係長 横山
青葉区中央市民センター長 吉田
宮城野区中央市民センター長 石川
若林区中央市民センター長 梅沢
生涯学習部長 柴田
生涯学習課長 田村

公益財団法人仙台ひと・まち交流財団市民センター課長 佐藤

(欠席：太白区中央市民センター長 猪股、泉区中央市民センター長 内海、
地域政策課長 市川)

○ 傍聴人

なし

○ 資 料

次第

資料1：住民参画型学習事業の成果の確認と今後の展開について～答申中間案～

資料2：本日の協議の進め方について

資料3：今後の審議会スケジュール

※ 会議の概要

1 開 会

事務局：本日は大変お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただ今から、令和5年5月の仙台市公民館運営審議会を開催いたします。

本日は三浦委員が15分ほど遅れて到着するという予定ですが、現時点で、委員の過半数である7名以上を満たしておりますので、市民センター施行規則第10条第3項の規定により有効な会議として成立しております。

本会議は、令和5年度に入りまして初めての会議でございますので、生涯学習支援センター長の武者よりご挨拶を申し上げます。

2 挨拶

生涯学習支援センター長：皆さまおはようございます。生涯学習支援センター長の武者でございます。昨年度に引き続き、どうぞよろしくお願ひいたします。

今月の8日から、コロナ5類に移行しまして、各市民センターでも、ロビーのレイアウトをもとに戻したりとか、掲示物の変更とか、いろいろ対応しております。地域活動ですとか、サークル、ボランティア活動ですとか、それぞれ活発になってきているようです。

市民センターまつりなど地域の大規模な行事も、今年は本格的にやろうという動きが聞こえてまいっております。そういった活動の再開、それから活性化に向けて、市民センターとしても、これまで以上に努力してまいりたいと考えているところです。

本日は、答申の中間案についてご審議をいただきます。初めに前回から書き足した箇所などにつきまして、事務局からご説明をさせていただきます。中間案につきましては、市瀬先生、伊藤先生、三浦先生にご執筆をいただきました。先生方誠にありがとうございます。次にグループに分かれていただき、最終案に向けた深掘りの議論をお願いしたいと考えております。

今期審議会は次回7月、最終8月を予定しております。答申作成の大詰めとなってまいりました。どうぞ忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

事務局：続きまして、事務局より、本日の出席職員をご紹介します。

〔出席職員紹介〕

事務局：それでは議事に入りますので、ここからは松田会長をお願いいたします。

会長：はい、皆さんよろしくお願ひいたします。

この会議は原則公開ですが、傍聴の希望はございますでしょうか。

事務局：本日はございません。

会長：はい。次に、議事録の署名委員ですが、名簿順ということで前回菅原委員をお願いしましたの

で、今回は鈴木委員にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

3 協議

会長：では、さっそく 2 の協議に入らせてください。

まず (1) 答申作成ですね。前回の審議会で基本的な考え方を、グループワークで議論いただきました。皆さんからの意見を踏まえて、各グループで市瀬委員、伊藤委員、三浦委員、お三方にご執筆ご協力いただき、先ほどの資料のとおり、まとめに入っております。

本日はグループワーク前回までの流れの確認からするともう最終ですね。今日はこの中間案についてさらに協議いただきたいと思います。我々委員の役割は議論を熱くするというので、よろしくお願いいたします。

この後のグループワーク討議におきまして、特に我々のまとめていく第 3 章の「今後の展開」について議論いただくこととなりますので、それを踏まえながら、今から中間案について事務局から説明をお願いしたいと思います。

事務局：資料 1 をご覧ください。前回資料から変わった部分を中心に説明します。

まず資料 1 の 2 ページ目ですが、こちらに資料編と記載しております。今日はこの資料は皆さんにはつけておりませんが、こういった資料を答申に掲載したいと考えてございます。

次に 3 ページをお開きください。これは事務局で作成いたしました、「はじめに」というところでございます。これまでの答申諮問から審議経過についてまとめた文章でございます。

5 ページ目です。第 1 章の各事業これまでの成果と課題ということですが、第 1 章の冒頭にリード文を掲載しております。

それから、若者事業の 6 ページ目の「(4) まとめ」というのがあります。これは、前回空欄になっていたのですが、これまでの成果と課題のその後ということで、事務局で掲載しております。同様に 6 ページ以降の住民参画・問題解決型学習推進事業、それから 7 ページの子ども参画型社会創造支援事業について、同じようにまとめの文章を今回挿入させていただいております。

第 2 章 各事業の現状に対する評価というところでも、この下にリード文を掲載しております。

それから、13 ページに、この審議会で取り上げました、事業の評価を事務局で今回掲載させていただいております。同様に住民参画型事業につきましても、17 ページに評価を掲載しております。それから、子ども事業につきましても、19 ページですが、当該事業に対する評価を加筆しているところでございます。

第 3 章でございます。こちらの「今後の展開について」というところが、21 ページになりますが、こちらのリード文を事務局で追記しております。また、その下の図ですが、各項目が分かりやすいよう、見やすいように若干の修正を加えているところでございます。

22 ページ以降は、3 人の委員の先生方からご執筆いただきました。本当にありがとうございました。書きぶりとして、あえて文章化はしておりません。いわゆる箇条書きのような形にしております。文章化してしまいますと、なかなかそれに対して意見が出しづらいのではないかと、会長のご発案もありまして、あえてこのような形をとらせていただいているところでございます。

「おわりに」のところは、会長に作成いただいたものを本日机上に配付いたしております。

それから机上にイメージ写真を配付させていただいております。いずれ最終答申の中に盛り込ん

で行きたいと思います。文章だけでは、なかなか読みづらいということがありますので、議論や視察の様子を視覚的にもわかりやすいように、掲載していきたいと考えております。その候補となる写真ということですので、ご参照いただければと思います。私からの説明は以上でございます。

会長：ありがとうございます。ただ今の事務局からのご説明について何か質問ありますでしょうか。

[発言なし]

会長：我々が視察に行った写真や図の見やすさとか、より良くしていただき、ありがとうございます。

それでは本日の協議のこれからの進め方ですが、執筆者の委員の先生方を座長に、小グループに分かれて、最後の意見交換で内容を深めるということで、議論を進めていきたいと思いますが、よろしいですか。その進め方について事務局から説明をお願いいたします。

事務局：資料2をご覧ください。

今回のグループも前回に続き、第3章のご執筆をいただく先生方に座長になっていただきまして、議論を進めてまいりたいと思います。グループ討議の時間は、大体40分程度をめどに取っていきたくて考えております。各グループに、区の中央市民センター長と、社会教育主事を2名配置しております。うち1名が座長の補佐ということで話し合いを進め、もう1名がホワイトボードに記録するという流れは前回と同様でございます。

会長：ありがとうございます。この進め方で皆さん質問などおありでしょうか。はい、どうぞ。

委員：最終的なページのまとめ方についてご質問させていただきたいと思います。

出てきているページの形式を見ますと、例えば、1番の住民参画型の学びでは、4行のリード文というか、大事なことが書かれていて、あと1、2、3、4、と書いてますよね。私の方ではそういうまとめ方をしていなくて、ご提案させていただいたものですから。話し合いをするときにここに何を書くとか、順番とか、いくつの項目にするというのも多分、議論が必要になってくると思うんですね。どういう形で収めていくのかをご提示していただいて、話し合いを進めた方がいいのかなと個人的に思っているの、そこを確認させていただいてよろしいですか。

会長：はい、分かりました。事務局とは、今日議論をして、終わった後に、表現の仕方について執筆委員の皆様方と確認できればというお話をしていましたが、先生がおっしゃるように、表現の仕方の統一性があった方が議論しやすいというのは、それはそうですね。事務局いかがでしょうか。

事務局：今ご提示のありましたリード文を作ること等々、大枠づくりというか、構図というか、そういったところについては、もし会長からご指導ございましたら、ありがたいのですけれども。

会長：はい。私からというよりも、我々全体で、こういったことでそうかと確認の上で書くようになればいいと思いますので、恐れ入りますが執筆委員の方々は書き方や表記の仕方についてどのような

ご意見ですか。

委員：今ご提示の部分については、私の書き方としては、今まで考えてきたことの行きつく先として、到達点みたいなものを書きまして、そのあとは箇条書きで、今後盛り込むべきポイントをいくつか書いておまして、それが本当に必要かどうかを今日話し合っておこう、と思っております。

ですので、最初に、ここまでやってきたことを確認するような文章が必要かどうかということは、決めておいた方がいいと思いました。

委員：他の方がまとめたのを見て、これまでの到達であったり、リード文というのはあった方がいいと思っています。ただそこをどんなふうにするか迷っているところです。

あと、箇条書きに項目を立てるといいかと思っていて、ただそれに番号をつけるかどうか。番号をつけたり、順番や並べ方次第では優先順位に見えるかどうかとも思って、その辺りは書き方とちょっと悩むところです。

会長：はい、分かりました。ほかの委員の皆様方から、何かアイデアご意見ありますか。

〔発言なし〕

会長：では、今からの進め方として、最初に一旦押さえの文を作っておいて、これからの展開については、読まれる方が項目の視点を重点化できるような書き方ということで、番号を振るかなどは調整するにしても、まず、先ほどのご意見を中心にということで、いかがでしょうか。

委員：ご提案いただいた内容でいいと思うんですね。やはり、リード文がないと何についてこれから語られるのが分からないので、それはあった方がいいと思います。

あと項目についてですが、このA4一枚ですと、最大で、3つか4つかなと思うんですね。あまり数字の番号が多いと煩雑な感じがしますので、似たような項目は合わせて、小項目で示す方がいいと思うので、どこかのグループが4つとかになって、どこかが3つよりは、ある程度3つか4つみたいに、ラインを決めていただいた方がまとめやすいかと思います。

会長：そうですね、では皆さま、そのあたりはよろしいでしょうか。

委員：今のお話のように項目の数がそろっていたほうが見やすいのかなと思いました。それで1点、さっきから気になっていたのが、グループ間でダブっている内容があるので、そのダブリを全体見通しながらこれから議論するのか、それとも終わってから執筆委員が集まった時にそのダブリを調整するのか、参加者の議論の進め方を確認させてください。

会長：はい、分かりました。ではそのダブリについてですけれども、それはそれぞれのグループで進めていくにあたり、当然、「この内容についてはここだけ」というのは、基本的にあり得ないですし、こういった内容はいろんな視点からでも共通するんだねということが、トータルで読まれる方

が、分かってもいいのかなと思うんですが。今から議論されるときに、当然自分のところだけでなく、他のグループのところでも項目でどんな議論が上がって表記がされて、その内容を自分のグループでもそっくりそのままなのか、違いは何なのか。自分のところもその独自性や内容の特徴を比較しながら意見を出して話し合うところで皆さんいかがでしょうか。

あと最初に戻って、表記の確認です。この答申のタイトルが「成果の確認と今後の展開」ということですので、最初にリード文として、成果の確認的なまとめの文章を、あとはA4一枚とボリュームが決まっていますので、先ほど三浦委員からご提案あったように、大体視点としては、3つか4つが良いでしょうかね。このような感じでボリュームをまとめていただくということでしょうか。そのほか、確認したいことはありますか。

委員：今の1、2、3、4、と分かれている3つの観点は、第3章「今後の展開について」というところの、その後の文がリード文で、それで1、2、3、4、に分かれていくわけですね。先ほどおっしゃっていたように、だらだらとあるのは良くないと思います。1つか2つの文章に決めてしまわないと、ここに【これからの6つの観点ごとにその望ましい方向性を示し答申する。】になってあるので、あまり細かく分けられてしまうと、読みづらいかなどちょっと思いました。

会長：今の確認です。この6つの中身については、たくさん項目があるんじゃないかと、とりあえず3つか4つくらいの内容で、今後の展開の中身の具体的なところを提案していくということでしょうか。はい、どうぞ。

委員：第3章は、今後の展開で良いですね。第1章、第2章に、成果の確認がありますので。

会長：はい、そうでした。

委員：ですので、第3章で今後の展開を述べれば良いということで良いですか。分かりました、確認でした。

会長：それでは皆さん大丈夫ですね。はい、どうぞ。

委員：先ほど、写真のお話があったんですけども、ホワイトボードの写真を入れるか入れないかという問題もあると思うんですけど。もし入れるとなると、例えば、A4一枚に文章と写真を入れるのか、あるは、2ページでもいいのかとなると、またちょっと話が違ってくると思うのですね、その辺りはどのようにお考えですか。

会長：分かりました。はい。事務局では写真の入れ方についてどんな想定でしたでしょうか。

事務局：具体的にここに入れようというところまでは決めておりませんでした。今A4一枚でおまとめいただいているんですが、これから、文章化していくとき、体裁を整えて1行空けたりとかいろいろしていくうちに、どうしても2ページぐらいになることはあるとは思っておりまして、その余白のどこ

ろに、写真を入れ込んでいきたいと思っております。第3章以外のところにも余白のあるページがありますので、そういったところも活用して、写真を入れ込んでいきたいと考えております。

会長：はい。皆さんよろしいでしょうか。

[発言なし]

会長：まず初めに大切な確認をさせていただいて、どうもありがとうございました。

ではさっそく進めますか。時間の確認ですが、グループ討議の終わりの時間はそろえるということで、事務局よろしいでしょうか。

事務局：25分開始予定でしたが、5分ほど、この資料2の時間から後ろにずれるイメージになります。

グループ討議の時間は40分きちっと取りたいと思います。

会長：はい、分かりました。では皆さん、よろしくお願いします。

[グループ討議]

会長：各グループ、短い時間の中でどうもありがとうございました。では全体共有させてください。第1グループから。

委員：グループの皆さまのお力で活発な議論をさせていただきました。私たちの担当は、住民参加型の学びで22ページです。項目としては1から7まで並べたところではあったんですけども、これをいくつかにまとめるということで、1と2ですね、住民のニーズを把握してオープンな市民センターを形成していくことで一つ。

それから3と6ですけども、住民自身が事業を市民センターの方と一緒に作り上げてゆくというプロセスも大事ですが、その後も住民が自立してさらに事業を展開して行って、それを市民センターがサポートするようなあり方というのが、今後の質の高い市民センター事業としてあるんじゃないかということで、3と6をまとめさせていただきました。

あとは5と7ですけども、これは今までやっている部分もありますが、やはり全体として質を高めるには市民センター同士が相互にファシリテーションの技能とか事業の形態とかを学び合うと、それは住民同士もそうですが職員同士もそういうことをしながら、お互いに全体の技能向上をさせていくことが重要ではないかというご指示をいただいたのでまとめるという話になりました。

それから23ページのところ、もう一つは世代間交流ということでお話ししました。これまで子ども事業、若者事業、大人事業ということで、この市民センター事業を展開していくんですけども、それを取っ払うのではなくて、今後のあり方としてはそれぞれが相互に乗り入れを図りながら世代間の交流を図っていくということで、23ページでいうと1と5を一緒にして、組織との連携で、学校はできているかもしれないですけど老人ホームとか、子育ての保育園とかそういったところとも協働していくことで、ますます世代間交流が図られていくであろうということでした。

2と3はこちらで何回も強調されているところですが、生涯学習の場としてどこかの世代の方が教えるんじゃないなくて、どの世代も互いに学習しながら学び続けていくということを強調するのがよろしいんじゃないかという結論になりました。

あとですね、4と6という項目あるんですけども、こういう市民センターの事業に参加することでつながりが形成されてコミュニティの形成に役立てるということ、最後に強調したかったのは参加できていない世代というのはやはり子育て世代であろうと、これが大きな課題となっているのをぜひ答申に残しておいて、子育て世代の参画を今後の市民センター事業で活性化していきたいという期待が出ました。以上になります。

会長：ありがとうございました。では第2グループお願いします。

委員：こちらでは、地域資源と持続可能性・つなぐ役割というところですが、まずは地域資源の議論に入るときに、これはでき上がったら誰が見るんだろう、誰のためにと考えました。住民の方が市民センターを利用する、もしくは市民センターの職員の方たちが答申を見て、これからの事業に生かしてもらおう時、どんな情報発信をしていったら、伝えていったらいいんだろうというところでは、抽象的な表現が多かったので事例を盛り込みながらイメージが湧きやすいような表現でまとめていくのがいいというまとめ方の指摘もありました。地域資源に関しては広くとらえると表現しましたが、文章中にもあるように再評価、再発見をして活用にちゃんとつなげるというところまで述べた方がいいかなというところですが。

次の多角的な見方で探求し、発掘のプロセスを大切にというところでは、プロセスって何だろうと。単年度で終わらせるのではなく、数年かけてじっくり取り組むプロセスもあるんですけど、どうしても次の持続可能性の議論ともかぶるんです。今、終わりがけに出たのは、市民センターの事業ってトライ&エラー、失敗も許されるというわけじゃないですけど、失敗しながらそれが本当にいい事業なのか、持続可能なものなのか、続けることに意義があるのかを探りながらやっていける事業なのではないかと。なのでそういうプロセスも大切に、まだ文章がそこまで表現できていないので表現できたらいいのではないかと考えています。

あとは地域の特色を明確にして、地域資源というのはその地域地域で様々ですので、明確にして分かりやすい言葉で発信をというところですが、先ほどの一番最初の読みたい人が楽しく、開いてみて、これは参考になったな、ラッキーって思えるような発信もありだと思っていますので、これは今この文章に関してではありませんが、市民センターのいい成果も報告する、他の市民センターの糧になるような情報発信の仕方もあるといいのかなと思いつつ、少し私の意見も入っていますが情報発信みたいところまで書いています。

持続可能性つなぐ役割の方ですけども、先ほども言ったとおりなんですけど、ただ続ければ良いではなく、やり続けることが本当に良いのかどうかという可能性も探りながらというところをうまく表現できたらと思っています。そして、並べる順番について迷っていたところをグループの方に議論していただいたいただきました。一番下に書いた、自立に向けての持続可能性うんぬんというところなんですけど、タイトルも今一つあいまいで。この部分、地域の持続性を支えるという、支援する市民センターの役割みたいところを少し強調して書いてから、ではどのように支援するのか例えば、やはり地域のいろんな人たちや団体が集まってくる拠点であるからということで、人とか団

体をつなぐことを2番目に述べて、それが事業だとか地域だとかを未来へつないでいくことに発展する、というような流れで3つ並べるといいのではというご意見をいただきました。

会長：はい、ありがとうございました。では第3グループお願いします。

委員：第3グループは情報発信とアフターコロナについて話し合いました。

情報発信については課題と提案を対応させるという書きぶりにした方がいいということです。大きな項目としては3つ挙げて情報発信の課題、2番目が世代をつなぐ情報発信の提案、それから3つめがニーズをつなぐ情報発信の提案という形でトントントンとまとめていければと思いました。今本当に急速にデジタル化というのが進みまして、それで遠隔地の方と関わるができるという私たちが今まで手にしたことがない情報のやり方をみんなだいたい習得することができましたよね。これはすごく良い意味でのデジタル化ですが、逆にデジタル化が進めば進むほどそこに追いつかない世代の方々もいらっしゃるし、そういう方への発信の配慮というものも同時に進める必要があるということです。そういう内容をまとめていきたいと思います。

アフターコロナについてはこれはコロナの付き合い方ということで私たちがこの3年間弱、ここで学んだものは大切なものは何か、それはやはりつなぎ役としての市民センターの役割、これを確認することができたと思います。項目としてはコロナ禍が残したものが1番、2番がコロナ禍で得たもの、大変ネガティブなあるいはマイナスなことが多かったですけども、その中で得たものも確実にありますのでそれらをまとめていきたいと思います。最後にコロナ禍から回復していくための市民センターからの役割というところでこれもトントントンと落としていきたいと思います。

今から申し上げるのは私の意見なんですけれども、私たちがまとめたところは課題と提案ということで、どちらかというところコロナのネガティブな部分を取り上げながら、だけど次はこうだよねというところを書いているのですが、このご提案の順番だとこれが4になって、さきほどの2グループさんの持続可能性・つなぎ役割が5になっているんですよね。それでアフターコロナが6になるので、それよりはホワイトボードの並びで1、2、3、4、5、6でまとめた方がすっきりするのではないかと、今思い付きでお話しましたがその辺いかがでしょうか。ご検討いただければと思います。以上で発表終わります。ありがとうございます。

会長：はいどうもありがとうございました。今、お話のあった最後の順番については、今ここでというよりも、次回は最終検討になりますが、そこででいいでしょうかね。

〔異議なし〕

会長：ありがとうございます。本日の各委員の皆さま方から最後にまた1分コメントということでよろしくお願いたします。第1グループの委員の皆さま方からひとつよろしいでしょうか。

委員：今日はお疲れさまでした。市民センターというよりも、今日は住民になった気持ちで、どうやったら市民センターが使えるかなとずっと頭を抱えていました。私は結構市民センターに伺うことがあるので、まだ入ることができるんですけど、それを本当にこのグループで一生懸命考えていた

のは、どうフラットにして、誰でも入れるところを作ればいいね、というのが主題でしたので皆さんよろしくをお願いします。今日はありがとうございました。

委員：今日はお疲れさまでした。私自身、市民センターを子どもが小さい時からすごく利用させていたでいて、すごく手助けしてもらって、今だにしてもらっているんですけども、この良さをいかにいろんな人に広く伝えたいな、分かってもらいたいな、という思いで今日話させていただきました。どうもありがとうございました。

委員：私はいつも市民センター側ではなく、いつも市民としてここに参加していました。なんか文句ではないんですけど本当に敷居が高いつつも思っていましたので、もうちょっと、スツとお茶のみに寄りたい、というような市民センターになってほしいな、というも思っています。一応これで終わりです。よろしく願いいたします。ありがとうございます。

委員：皆さん今日はどうもありがとうございました。お疲れさまでした。私はこの2グループで本当に言いっぱなしで大変迷惑をかけていますが、ありがとうございます。ここ5~6年ぐらい、市民センターさんとは一緒にまち歩きとか活動させていただいていて、そのときいつも思うんですが、市民センターはまちの本当の拠点だなあと、そういったものが皆に伝わるようなそんな答申になればいいと思っています。引き続きよろしく願いいたします。ありがとうございます。

委員：皆さんから本当にいろいろな意見をいただきながら、まあ何ていうんでしょう、本当に文字に表現するのが難しいなと思いつながら、こういう見方、こういう見方、というのを意見いただきながらまとめていけることは、私は本当に気づきがあって。なので読んでいただけるような、あとは読んだら何かこう、なるほどと、読みたいなど、楽しかったなと思えるようなものをまとめられるようにしたいと思っています。以上です。

委員：本当に言いっぱなしで申し訳ありません。どこのグループさんのも読ませていただいてとても分かりやすく、市民センターはとても大事なんだなあ、と伝わってきました。またこの会の言葉で市民センターでなければ困る、市民センターでなければできないことというのがすごく大事で、本当に市民センターがあったから学校もいろいろ助かっているの、そんなことが見ただけで伝わっていくといいなと思います。ありがとうございました。

委員：今日もありがとうございました。言いっぱなしのもう一人です。非常に分かりやすくまとめていただいて感謝しております。ちょっと書いていただいたんですが、このまとめたものを手に取った方、市民センター職員の方々、関係の方々、今年も来たよ、早く見たかった、見て読んでラッキー、良いこと一杯書いてあった、と思えるものを毎回出せるようにするのが私たちの責務かなと。固いことばかりでもなく読んで分かりやすい情報がいっぱい入っている、なるほどと思えるものができたらいいな、というのが理想で、そういうのができたらいいと思っています。そして私自身も子どもが小さいころ市民センターのヘビーユーザーで、そして今マイスクールで受託している事業の委員として市民センターの館長さんに名前を連ねていただいて助言等をしていただいております。

すので、やっぱりそういう信頼性の高さというのを市民センターとしては強みにして、今後も私たちと一緒に活動していければと思っております。ありがとうございました。

委員：皆さんお疲れ様です。市民センターはですね、小さい人からお年寄りまで、すべての年代に対して接しているのが市民センター。地域の本当の拠点の市民センターだと思います。コロナによって寸断された、これをまた一からつなぎ直すというのはなかなか難しいですけども、前に戻すのではなくて新たなものとしてまた市民センターで関わっていききたいと。そういう思いにさせる市民センターにしていいただければありがたいなと思います。以上でございます。

委員：3月にまとめてくださったときも、すごく私、感銘を受けたのが、3年間無我夢中という感じでしたんですね。今でこそアフターコロナと言っていますが、東日本大震災がありまして大変な思いを皆さんしたわけですね。私、総務省の東京消防庁の方から災害伝承住民プロジェクトというところに関わらせていただいて、全国いろんなところに「東日本大震災のとき一番大事だったのは隣近所地域との助け合い、これです」とずっと言い続けてきました。ところが2022年からのコロナのためにその防災講座そのものが中止になりました。やっと少し良くなったかなと思っても、オンライン配信それとオンデマンド配信ですね、それに代わってしまって、まずつながることができない。でもまだ企画してくださった市町村はよかったんですけども、そういう3年間ずっと続けてきて。でもこのグループで、パンデミックはまた続くでしょう、また来年くるかもしれない、この3年間無駄にしないで次に備えるために、という言葉聞いて本当にそうだなと思いました。

私は学校にも関わっていて、スーパーバイザーをしていて、1年生なのにずっとマスク外さない、給食食べる時だけマスク外すような生活、それから中学生3年間修学旅行にも行けないコロナ世代ですよ、その子たちがその3年間無駄にしない、小学生たちに何とか伝えることができるようにとすごく思いました。先生からのご提案でこの市民センターの利用者数2020年から最近までのデータを出せませんかという事で、出せますよ。口で言うだけじゃなくてデータを見ることによって本当に利用できなかったことがわかると思うというご提案がすごくよかったなと。

図式ですかね、私なんか単純なので、これすごく分かりやすいな、すごくいいなと思いました。すぐ分かりましたこれで。市民センターの役割、とにかく核となって地域と学校と行政とつないでいただきたい、というのが私の思いです。これからもどうぞよろしく願いいたします。

委員：なかなか用事がありまして出席数が少なかったんですけど、本当に市民センターとのかかわりということで、私も連合町内会長やっているもんですから、市民センターのまつりとかそういう中で利用しているという形でこれからも市民センターが無くてはならないものなのかなと思っておりますので、今日は本当にありがとうございました。

委員：大学でよくお話ししているのは、学習というのは一人で学習するんだよと、だけど一人で学習した後何人かで学ぶことでその学びが深まるんだよ、という話を、実は1時間目に講義をしております、そういう話をしてきました。今日は委員の皆さまとお話しして、まさしくそのとおりだなと。一人一人思っていることを出し合って、意見を重ねていくことでどのグループもすごく深まりのあるまとめになっているのではないかと思います。またこのように対面で話をしたり学ぶとい

うことがいかに大切なことかを実感するひとときでした。どうもありがとうございました。

委員：本日参加させていただきまして本当にありがとうございました。特に執筆という役割を仰せつかっているのですが、委員の皆さんから具体的にこういう事業をやっている、こういう中でこう感じたという意見、事例をたくさん頂戴いたしましたので、そのことを考え、裏に描きながら書いていくことが非常に大事なかなと思いました。市民センター事業ですね、これまで長年の積み上げでどんどんレベルも質も高まってきていると思いますので、今後進むべき方向性はどうかということをごできるだけ明確にできるように書いていければと考えております。

会長：ありがとうございます。どうもお疲れさまでした。今期ほぼグループに分かれて話し合い深める方式をとりまして、事務局と社会教育主事の皆さんのご尽力のおかげで我々委員が話し合いができたのは本当にありがたいことだったと思います。ありがとうございます。

今回は、全体ロの字型で全員で1ページずつ確認していく校正作業になると思います。その際は今日出てきました、本当に市民目線で、と言いますか、我々委員が改めて原点に立ち返って、いいものができればいいなと改めて私も思いました。どうも本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。事務局にお戻しします。

4 その他

事務局：ありがとうございました。次第の3のその他ですが皆様から全体をとおして何かご意見やご質問がございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

〔発言なし〕

5 閉会

事務局：最後に今後の会議日程について資料3をご覧ください。次回は令和5年7月6日、木曜日の午前10時開会でございます。会場はこちらの生涯学習支援センターの5階第1セミナー室を予定しております。以上で本日の会議を終了いたします。

以上

会 長

会議録署名委員
